

(3) 話題提供：国内外の事例

国内の事例

ポスター発表から

名古屋大学附属図書館 情報管理課長

富岡 達治

サマリー

14機関からエントリー

- 筑波大学附属図書館
- 千葉大学附属図書館
- お茶の水女子大学附属図書館
- 電気通信大学附属図書館
- 金沢大学附属図書館
- 福井大学附属図書館
- 名古屋大学附属図書館
- 京都大学図書館機構
- 大阪大学附属図書館
- 鳥取大学附属図書館
- 広島大学図書館
- 岡山大学図書館
- 九州大学附属図書館
- 長崎大学附属図書館

取り組みの観点

1. 学生の主体的な学びと成長の支援
2. 学習環境と施設の革新
3. 情報資源の活用と提供
4. 学生と連携した図書館運営と広報

1. 学生の主体的な学びと成長の支援

・個別相談・ピアサポートの充実

図書館職員や大学院生が学習相談やサポートを提供

筑波 千葉 お茶の水女子 福井 名古屋 大阪 九州

・スキルアップ・リテラシー教育の推進

情報活用能力や学術的文章作成能力を向上できるように、実践的な講習会や研修を実施

福井 名古屋 大阪 岡山 広島 九州

・学生の交流・発信機会の創出

学生が互いに学び合い、自身の興味や研究成果を発信する機会を提供

お茶の水女子 福井 京都 大阪 岡山 鳥取 九州

2. 学習環境と施設の革新

• デジタル技術を活用した環境整備

AI、デジタルツールなどの最新技術を導入し、利便性向上や利用状況の可視化

電気通信 京都 大阪 岡山 長崎

• 多様な学習空間と設備の提供

学生が目的に応じて最適な学習ができるよう、様々な機能を持つ空間や設備を整備

筑波 電気通信 金沢 福井 広島 九州 長崎

• ハイブリッド・遠隔学習支援の強化

ハイブリッドな学習環境を整備し、地理的・時間的制約を超えた学びを支援

千葉 電気通信 大阪 長崎

3. 情報資源の活用と提供

• 資料選定と提供方法の改善

学生のニーズに合わせた資料を効果的に提供するため、選定プロセスなどを改善

鳥取 岡山 長崎

• 電子リソースの利用促進

電子リソースのアクセスを容易にし、その利用を促すための活動を展開

福井 岡山 長崎

• 特色あるコレクションと展示の充実

学生の興味関心を広げ、学びに繋がるよう、テーマ性のある展示を展開

金沢 福井 岡山 九州 長崎

4. 学生と連携した図書館運営と広報

• 学生協働による図書館活動の推進

学生が主体的に企画や運営に携わることで、図書館の活性化と学生自身の成長を促進

筑波 お茶の水女子 大阪 鳥取 九州

• 学生意見の収集とサービス改善への反映

学生からのフィードバックを積極的に収集し、図書館サービスを具体的に改善

千葉 お茶の水女子 名古屋 鳥取 長崎

• 効果的な情報発信と広報戦略

多様なメディアを活用した広報活動で、図書館のサービスやイベントを効果的に発信

筑波 京都 岡山 鳥取 長崎

ポスター紹介（抄）

詳細は、ポスター展示会場（会議室3）でご確認ください
ポスターは、国立大学図書館協会ウェブサイトでも公開します

筑波大学附属図書館

「つくば型チュートリアル学修」による学修者本位の教育モデル

- 学生の個性と主体性を重視した「対話的学び」
- 授業との深い連携
- 図書館施設の活用
- 人的サービス

"対話的学び" × 図書館の学修支援
「つくば型チュートリアル学修」の授業支援
筑波大学附属図書館

つくば型チュートリアル学修とは？
「つくば型チュートリアル学修」は、筑波大学が2024年度からおよそ10年間をかけて独自に創り上げて新しい教育モデルです。学生の個性と主体性を重視し、ひとりひとりの広く深い学修をサポートする個別指導により、創造性豊かな思考力と行動力で未来をデザインできる人材の育成を目指します。

授業「学問探究チュートリアル」	実施時期	実施内容
「学問探究チュートリアル」は、つくば型チュートリアル学修の第一歩として2024年度に開設された、一年間の道のり科目です。（総人数40名） 1年目の授業は2024年5月から2025年1月にかけて実施されました。ワークショップや個別対話を通して、学生は自らの学修テーマを深め、最終回では、学生が1年間の成果をポスターで発表しました。	5-6月、10月	ワークショップ (60)
	7-12月	個別対話 (60)
	1月	最終発表

全ての内容を中央図書館で実施！

授業の場として図書館がふさわしい！
「『新しい知』を生むための"知の集積"」
「『対話的学び』のための"オープンな場"」

共に学ぶ "場"
学びを深める "資料"
学びに寄り添う "人"

授業運営への図書館の貢献
図書館が授業支援を開始するにあたり、1つの科目に年間を通して密接に関わり支援していく取り組みは前例がなかったため、図書館が提供できる内容を検討し、2023年度末に「チュートリアル授業を支援するための図書館サービス方針」を作成しました。大きく分けて以下の4つです。
1. 授業における図書館施設の使用
2. チューター-教員の協働授業を紹介する本館の設置
3. 最終学生に対する人形サービス
4. 広報・成果物展示への協力
これらによって、教学デザイン室・教育推進部教育機構連携課との連携のもと、2024年度から実際の授業支援を開始しました。「学問探究チュートリアル」の4科目は、本学の指定国立大学法人機構及び第4期中期目標・中期計画に掲げるチュートリアル教育の推進と実現のため「学問探究委員会」の下に設置された「チュートリアル学修推進委員会」により実施されています。委員会は各学群より選出された教員チュートリアル教員タスクフォースの教員（合計約30名）で構成されています。毎月開催される委員会やタスクフォースの会議には図書館職員も参加し、議論の過程でリアルタイムで把握することで授業運営への協力が活かされています。

授業支援を通して改めて考える 学生にとっての図書館の価値とは
「オープンサイエンスの時代にふさわしい『デジタル・ライブラリー』の実現に向けて～2030年に向けた大学図書館のロードマップ」(令和7年7月)では、「学修者本位の教育の実現に即した機能的な役割を求められている」と指摘されています。筑波大学が進んでいる「つくば型チュートリアル学修」は、まさに学生一人一人の学びに寄り添う、学修者本位の教育であると言えます。この授業で、学生が「同級生や先生と、学問的に自分が興味のあることを思う存分話し合える場はここしかない」「自分の関心ゲームで取り付けていくために図書館で借りた本が強いヒントになった」と語った言葉は、図書館が授業と連携することで学生に提供できる「場」や「資料」の価値を示す言葉として私たちに送られています。「つくば型チュートリアル学修」は、学生の主体性と創造性を育む新たな教育のカタチです。その第一歩を歩んだ図書館の取り組みは、学びの場としての図書館の可能性を広げました。今後も、図書館は教育と連携しながら学生一人ひとりの探究を支える存在であり続けます。

附属図書館における学修支援体制
中央図書館では、「ラーニング・スペース」(ラーニングコモンズ)を2011年度にオープンし、ラーニング・アドバイザー(大学院生)が活動するなど、学生の学修をサポートするための「場・資料・人」の提供にフォーカスした支援体制の構築を継続的に実施してきました。



千葉大学附属図書館

ハイブリッド型学習支援・環境整備

● 「アカデミック・リンク」のコンセプト

- 考える学生の創造
- 知のプロフェッショナルの育成

● 検討方法と改善事例

- 職員ワークショップ (WS) の活用
- 学生行動のタグ付けと分析
- データに基づいた方針決定

**千葉大学アカデミック・リンク・センター
ハイブリッド型学習支援の実践と改善**

Academic Link

千葉大学 アカデミック・リンク・センター/附属図書館 ハイブリッド型学習支援プロジェクト

ハイブリッドとは(今回の定義)
学生が学習環境と学習支援を授業内でもオンラインでも利用できる環境

1.概要説明

1.1アカデミック・リンクとは

教育・学習のためのコンセプト

- 生涯学び続ける基礎的な能力と知識活用能力を持つ
- 「考える学生の創造」→学習支援
- 深い専門性と俯瞰的思考力を備えた「知のプロフェッショナルの育成」→大卒生支援

1.2コンセプトの共有方法

全職員参加の館内ワークショップ (WS) を実施

- 第1回 2015年コンセプトから自らの共有「学生ニーズの実践実を自覚して」
- 第2回 2017年「従来の方向性もみ込んで考えよう」「学際空間改善を自覚して」
- 第3回 2022年「目標自体をみ込んで考えよう」WSでのグループワーク「ハイブリッド型学習支援・環境整備の検討」

1.3ハイブリッド型学習支援の背景

- 2022年はコロナ禍を経て対面での授業やサービスが使えなくなった時期。対面とオンラインを併用したサービス提供の方法を模索
- 入学時からハイブリッド型学習環境が前提の学習スタイルに変化(1人1台端末所持、オンライン授業と対面授業の併用)
- このような学生の変化に対応した支援を提供するため検討を開始

2.ハイブリッド型学習支援の検討方法

2.1WSで出た意見の仕分け

支援が必要な学生の全行動をタグ付けし、下記のグループに仕分け

- ① 空間の利用
- ② コンテンツ利用
- ③ ハイブリッド型学習支援の利用
- ④ その他

タグ付けの対象データ：WSのデータ + 学生の実態データ
学生行動のアンケート結果 (自由回答型) / 学生へのインタビュー

2.1.1仕分けの結果

③「ハイブリッド型学習支援の利用」に含まれる行動のタグ

- 相談する
- 情報を得る
- 図書館のサービスを使う

④その他の行動については、他のワーキンググループで検討する

2.2ハイブリッド型学習支援検討の流れ

1. 全職員参加の館内ワークショップ (WS) を実施
2. 意見の整理と共有
3. 検討会の開催
4. 検討会の開催
5. 検討会の開催

3.実際の改善事例

3.1「相談する」タグが付与された学生の行動を支援するためのサービスの改善事例

- ① 相談する
- ② 2.2の分析結果に基づき、改善の方向性のタグをまとめる
- ③ パターンごとにどのような支援が必要か検討

3.2具体的な改善事例

3.1.2のパターンを個別のサービスに適用し、改善を検討

例) 大卒生による学習相談

- サービスによって相談できる内容、相談者の属性(学生・教職員等)に違いがある
- 各サービスの特性をふまえて適切な支援の方法を検討

3.3他のタグが付与された行動について

「情報を得る」や「図書館のサービスを使う」のタグ(2.1.1参照)を付与した学生の行動に対する支援

→同様に各タグの分析結果と改善の方向性から各サービスの改善を検討実施

4.まとめと今後の課題

4.1ハイブリッド型学習支援全体の改善に必要なこと

- 相談する・情報を得る・図書館のサービスを使うに含まれる学生の行動とそれに対応するサービスはそれぞれ関連しているため
- 全体を再調査し、理念やコンセプトに沿った改善が必要
- 実現には課や担当業務を超えた情報共有・意見交換の機会が重要

4.2今後の課題

- 今回の検討は支援が必要な学生の行動のうち一部のみを対象とした
- 今後、全体を網羅しての検討が必要
- 総合的に検討することで支援の幅が広がる可能性がある

5.我々が大切にしてきたこと

- 自らの活動をWS等で振り返り、学生の動向を調査しつらうえて、**注力すべき方針**を検討
- 職員の見解だけで判断せず、当事者の意見(学生インタビューやアンケート結果)も取り入れること
- 知識と経験とあわせて、**データに基づき方針**を決定してサービスを再設計する意識
- WSのように**コンセプトと共有する機会**をもつことで、全員が同じ方向を向き、状況に合わせて機動的に動く状態の維持

お茶の水女子大学附属図書館

学生の可能性を広げる協働

- LiSA (Library Student Assistant)
 - ・ 学内インターンシップとして図書館スタッフとの協働
- LALA (Library Academic Learning Adviser)
 - ・ 学習・研究のピアサポートを提供
- MuSA (Museum Student Assistant)
 - ・ 歴史資料館スタッフとの協働によりスキルアップ
- PCサポーター

The infographic is a colorful collage of text boxes and photos. At the top, it features the logos of the Ochanomizu University Library and the four student groups: LiSA, LALA, MuSA, and PC Supporter. The central theme is '学生の可能性を広げる協働' (Expanding Student Potential) and 'お茶の水女子大学附属図書館の取り組み' (Library's Initiatives). It is divided into several sections:

- LiSA (Library Student Assistant):** Describes it as an in-campus internship. It lists 24 participants in 2023, a schedule from 10:00-17:00, and activities like book shelving and staff support. It highlights the benefits of learning from library staff and contributing to the library's operations.
- LALA (Library Academic Learning Adviser):** Focuses on peer support for learning and research. It lists 5 participants in 2023, a schedule from 12:00-14:00, and activities like study consultations and seminars. It emphasizes the value of sharing experiences and providing support to peers.
- MuSA (Museum Student Assistant):** Involves collaboration with the history museum. It lists 8 participants in 2023, a schedule from 13:00-17:00, and activities like handling historical materials. It notes that students gain practical skills and contribute to museum operations.
- PCサポーター (PC Supporter):** Provides technical support for library users. It lists 3 participants in 2023, a schedule from 13:00-14:30, and activities like PC setup and environment maintenance. It mentions that many students are active in this role, contributing to a user-friendly environment.

A central box titled '学生の可能性を広げる協働' states: '本学では4つの学生協働を行っており、参加する学生、利用者、図書館の三方に有益な活動となっています' (The university has four student collaborations, which are beneficial activities for participating students, users, and the library). The infographic also includes photos of students engaged in these activities and a list of staff members at the bottom.

電気通信大学附属図書館

IoT/AI技術を駆使した学習空間の構築と 教員との協働による主体的な学びの支援

- Ambient Intelligence Agoraの設置と活用
- 未来志向のハイブリッド学習環境の整備
- 授業におけるAgoraデータの活用と学生による共創
- 学生のニーズへの対応とサービス改善

電気通信大学附属図書館
学びの場の充実に向けた教員との協働による取り組み

Ambient Intelligence Agoraを中心とした学修環境の整備 with 人工知能先端研究センター

Ambient Intelligence Agora(Agora, AIA)＝図書館利用者のためのアクティブラーニングスペースとAI研究等のための実験スペースが融合した学習空間。2017年設置。1,008㎡、284席(附属図書館全体7,468㎡、674席)

未来志向ハイブリッド教室 UEC-eDX with セラミックセンター

地理的・時間的制約を取り払い、離れた場所にいる学生同士との共同な学修活動を可能にするシステムの構築

西9-201 ハイブリッド講義室
東3-221 ハイブリッド講義室
第3-図書館Agora
A201/202 講義室
VR campus
対面/遠隔/バーチャル空間をシームレスにつなぐ!!

IoT/AIによる空調、換気、照明制御

環境センシングシステム
CO₂・人感・温度湿度センサーを学修空間全域に設置し、学修環境データを取得
データ可視化によりリアルタイムモニタリングを実現し、混雑状況の把握に活用

アクチュエーションシステム
AIを活用し、取得した学修環境データを元に室内環境の変化予測と学修環境機器の自律的制御を実現
→安心・安全で知的生産性の向上を可能とする自律的・協働的学修環境を構築

授業でのAgoraデータ活用 with 情報工学工房

プログラミングを修了する工厚という形態をとおして、プログラム製作の実践力、実行力を目指す。学生が主体的にプロジェクトを展開する通年選択科目「情報工学工房」にAgoraで取得されたセンシングデータを提供

「学内の混雑していない自習場所を効率的に探したい」という問題意識から、CO₂センサーと人感センサーのデータを分析して、回帰モデルにより、Agoraの混雑予想を行うAIアプリを学生が開発

モバイルバッテリーの貸出 with リポートエレクトロニクス先端研究センター

センシングデータの分析や学生の利用行動の観察から、座席利用が電源付帯に集中しており、実質的な電源数が不足していることや、可動式仕様の利点が活かされていない状況が判明

電源供給の不足を補い、学生の学修環境を向上させることを目的として館内でモバイルバッテリー貸出サービスを実施(2022年～)。貸出件数、利用されていた時間、消費電力をMicrosoft PowerAppsを用いたアプリでデータ化した。研究データとして教員に提供

国立大学図書館協会新72部会(2025.6.19-20) 電気通信大

金沢大学附属図書館

学生の知的な好奇心と多角的な学びを育むための学習空間を創出

3つの「森」により文理医薬融合の知性を育成

- 思考の森（中央図書館）
- 発見の森（自然科学系図書館）
- 生命の森（医学図書館）

金沢大学附属図書館

中央図書館
思考の森
SHIKO no MORI

パンクマ

金沢大学附属図書館では、令和5年3月、中央図書館に「思考の森」を作りました。「思考」には前身校である「四高」の響きを重ねています。

思考の森には、

- ・金沢大学の歴史を一覧するコーナー
- ・共通教育で学ぶ学生をターゲットに教養書を揃えたコーナー
- ・「館長の集箱」をはじめとする学生や教職員の持ち込み企画による本棚オーナーコーナー
- ・貴重書展示コーナーを設置しています。

令和7年4月、新たに自然科学系図書館に発見の森、医学図書館に生命（いのち）の森を設置しました。専門性にとられない広がりをもつ本をこの三つの森に巡回させ、文理医薬融合の知性を育む意図があります。
(杉山欣也金沢大学附属図書館長)

自然科学系図書館
発見の森
HAKKEN no MORI

エコくま

医学図書館
いのち 生命の森
INOCHI no MORI

いのくま

KANAZAWA UNIVERSITY

福井大学附属図書館

発想のヒントのための引き出し作り

「資料」、「場」、「人」の提供により知的好奇心を刺激

- 多様な興味・関心の醸成
 - ・ 電子ブック利用促進、テーマ展示、他館貸出パッケージ
- 読書・知的交流の促進
 - ・ 研究ミニトーク、ラーニングアドバイザー、勉強会支援
- 学生活動・研究の発信支援
 - ・ みんなの本棚、課外活動成果発表



名古屋大学附属図書館

体系的な情報リテラシー教育提供と 大学院生との協働による学習支援

- 名古屋大学附属図書館情報リテラシー基準
 - ・ 教員との連携とカリキュラムへの組み込み
- 大学院生サポートスタッフとの協働による学習支援
 - ・ ラーニング・サポートデスク、刊行物発行
- 職員の研鑽とスキルアップ
 - ・ 多角的なテーマ（教員との連携、学習サポート技術等）でのワークショップ

名古屋大学附属図書館 情報リテラシー基準

2025年6月19-20日
第17回国立大学図書館協会 研究集会

① 初年次教育における講習会

学部	講義名	担当	時間	会場	履修者数
文学部	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	11:00-12:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	13:00-14:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	15:00-16:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	17:00-18:00	101	150
経済学部	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	11:00-12:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	13:00-14:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	15:00-16:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	17:00-18:00	101	150
工学部	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	11:00-12:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	13:00-14:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	15:00-16:00	101	150
	初年次情報リテラシー講習会	山本 浩一	17:00-18:00	101	150

② 大学院生サポートスタッフとの協働による学習支援

学習サポートデスク

ラーニング・サポートデスク

刊行物発行

③ 活動を支える職員の研鑽

1. 教員との連携を考える
2. 読書会を学ぶ
3. 読者のためのスタディデザイン
4. 学習サポートの技術を知る

京都大学図書館機構

デジタル技術を活用した利便性向上・イベント実施

- シン・マップ
 - ・ ルート案内機能も備えたデジタルマップ
 - ・ 図書館以外の学習の「場」も集約（予定）
- デジタルスタンプラリー
 - ・ 新入生向け図書館紹介イベントをデジタル形式で復活
 - ・ 参加者集計の効率化
 - ・ 参加者同士の交流、職員同士の交流にも寄与

新たなコミュニケーションを生み出す デジタルマップ・スタンプラリーイベント
西川風香子¹・奥嶋聖志²・古森千寿¹・山城千穂²
(1) 附属図書館 (2) 吉田南総合図書館 京都大学図書館機構

1. 問題関心
京都大学内には図書館・室が40近くある。各図書館・室の利用案内や開館日などの情報は、図書館機構ウェブサイトに掲載しているが、所在地情報はPDF形式の地図のみで、スマートフォンからは見づらく、窓口でも印刷した地図で案内するしか手段がなかった。
そこで、ポードライト株式会社提供するデジタルマップ「プラチナマップ」を導入し、2024年12月に「シン・マップ」として公開した。「シン・マップ」は端末の地図を開くアクセス可能で、各図書館・室の情報をわかりやすく表示することができ、ルート案内機能も備えている。この「シン・マップ」のオプション機能であるデジタルスタンプラリー（プラチナラリー）を使って、2025年4月に新入生歓迎イベント「図書館機構デジタルスタンプラリー」を開催した。

2. デジタルスタンプラリーとは
学内の図書館・室を訪ねて、掲示されているQRコードを参加者自身のスマホで読み込み、スタンプを集め、獲得したスタンプ数に応じて図書館グッズをもらえる仕組みである。
メインキャンパスのほか、周辺や遠隔地キャンパスの図書館・室からも企画への参加があり、合計19図書館・室、24ポイントを設置した。図書館グッズの交換は附属図書館のみで行った。

3. 広報
広報用ポスターやアプリ内のスタンプ、バナーは吉田南総合図書館が制作を担当し、図書館機構ウェブサイトでもニュースを掲載した。また附属図書館のスタッフが「クラちゃんタウン」として各図書館・室の様子を撮影し、その様子をXで投稿し、X上でもバーチャル図書館回遊を楽しめるようにした。

4. 実績
ポイントチェックイン人数（合計370人）
特典 オリジナルグッズ
特典交換者数（合計103人）

5. 考察と展望
新入生歓迎イベントは「図書館機構スタンプラリー-Library Walk」として2013年から2019年に学内図書館・室で協働開催を実現してきたが、コロナにより参加者が紙の台紙を持って図書館を回遊するスタンプラリーの問題は発生しなくなった。このたびはさらにデジタルスタンプラリーという新たな姿で新入生のための学内図書館・室巡りイベントが復活した。イベントへの参加だけでなく、同じポイントを獲得した参加者同士がX上でやり取りしたり、対面での交流が生じたりなど、新たなコミュニケーションが生まれたことも確認している。大学図書館のデジタルなイベントを通じて自然発生的に交流の場が生まれた事例として報告したい。
また、物理的な接触を減らす感染症予防、参加者集計の効率化といった運営上の利点に加え、さらに副次的な効果として投稿用の写真撮影のために各図書館・室を訪ねる過程で、各図書館・室の職員同士の交流が生まれ、通常業務以上のつながりを築くこともできた。
今後は、図書館・室の情報のみならず、学内の様々な学習スペースに関する情報を「シン・マップ」に集約することで、利便性を向上させる予定である。

付録、デモ
研究会発表ポスター発表にあたり、ポードライト社に協力を得てスタンプラリー体験キットを用意した。下記のQRコードを読み込み、利用規約に同意すると、スタンプラリーに参加できる。ぜひ試してみたい。
(デモ期間：2025年6月19日(木)~6月20日(金))

大阪大学附属図書館

「新しい図書館のスタイル」構築

- DX推進
 - ・ 顔認証システムの導入・デジタル学生証への対応
 - ・ スピーキングブースの導入
- ラーニング・サポーターとの協働
 - ・ 対面、リアルタイムオンライン、相談フォームの対応
- 「公共×大学」図書館のユニークな活用
 - ・ 箕面市立船場図書館（大阪大学が指定管理者）の一体的運営

大阪大学 THE UNIVERSITY OF OSAKA 附属図書館における学生支援
新しい“場としての図書館”を目指して

コロナ禍後の学生に活用される新しい図書館のスタイル

顔認証システムの導入・デジタル学生証への対応
※オープンアクセス加速化事業の一環として導入

大阪大学のDX推進（DX推進室）
2024年4月 顔認証入場管理システムを構築・学内への展開
2025年1月 大学公式アプリ上でデジタル学生証・教職員証の提供を開始

↓

附属図書館においては、大阪大学、記伊福屋書店、パナソニック コネクトが連携し、**顔認証対応入館ゲートと自動貸出返却装置を導入**

2025年5月 顔認証を利用した入館を開始
デジタル学生証・教職員証のQRコードを利用した入館ならびに貸出を開始

2025年秋 顔認証による貸出を運用開始予定

導入のメリット
学 生：利便性向上
図書館：カウンター業務の負担軽減
→人的リソースの効果的な再配分が可能に

スピーキングブースの導入

ニーズ
学 生：オンライン授業受講やWebミーティング参加
図書館：カウンターにとられない、館を超えたオンラインレファレンスの実現

ユースケース
・オンライン授業の受講
・教員のオンライン授業実施
・外国語の発音練習

附属図書館ラーニング・サポーターとの協働による学習支援サービスの提供

2009年度より学生の学習支援を行う大学院生TA「ラーニング・サポーター（LS）」を館内に配置（今年で17年目）

活動内容：学習相談への対応、セミナー等の自主企画、図書展示の企画、図書館ツアーのガイド等
2025年度は総勢22名のLSが授業期平日に各キャンパスで勤務

・学習相談は、ラーニング・サポートデスクでの対面、リアルタイムオンライン、相談フォームの3種類で柔軟に対応

・これまでにLSが作成したバスファインダーは244点

・LSのための研修を全学教育推進機構の専任教員が開催
たとえば……
学業支援3つの原則 / 書くことを教えるラーニング・サポーターのためのライティング支援研修

・LS（現・本学特任助教）がLS活動改善のための報告書を公表
中略（2024）『大阪大学附属図書館におけるLS活動改善のためのアジアネットワーク・オンライン・スキル学習とその効果の検証報告』『大阪大学附属図書館』11、98-101。

ラーニング・サポートデスクは、学生の学習活動をサポートするのみならず、研究者・教員の卵であるLSの学びの場にもなっている。

本学学生ならではの「公共×大学」図書館活用例

本学が指定管理者として運営する箕面市立船場図書館は、大学図書館機能を兼ね備えたユニークな図書館

一体的運営→本学構成員による社会貢献の場として機能

外国語部の学生の実践例

・海外の文化を紹介する市民向けイベントを開催
・学習・研究成果を市民に発表
・外国語での読み聞かせイベントを開催
言語初學者の学生にとっては発話実践の場
外国ルーツの子どもたちにとっては母語に触れる機会

これらの活動を通して、学生が教室から一歩出て実践的な学びと社会貢献の喜びを経験できるよう支援している。

鳥取大学附属図書館

学生とつくる学生のための大学図書館

- 学生図書館ワーキンググループの活動
 - ・ 学生による主体的な活動
(図書を選書、イベントの企画・運営等)
- 学生視点でのサービス提供と環境整備
 - ・ 図書館ツアー、ブックハンティング
 - ・ 大学図書館学生協働交流シンポジウム
- 学生の要望への対応
 - ・ 県内図書館との連携、モバイルバッテリーの貸出



広島大学図書館

国際戦略に対応した環境整備と支援

- キャンパスの国際化とグローバル人材育成の推進
 - ・ 日本人学生と留学生の交流「図書館でEnglish / Japanese」
 - ・ グローバルラーニングセンター
(2025年10月 西図書館に開設予定)
- ライティングセンターの機能拡充
 - ・ 書き手の学術的文章作成力を育む「広島大学型」
 - ・ チューター養成課程による国際的チューター育成

大学の国際戦略における図書館の役割
広島大学図書館

平和を希求しチャレンジする国際的教職員の育成
時空の制約を超えたグローバルキャンパスの実現
○令和年度大学教育再生戦略推進費「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に採択

図書館のビジョン1
キャンパスの国際化、グローバル人材育成の実現に向けた図書館の環境整備<教育>

図書館のビジョン2
研究および教育の質的向上に向けたライティングセンターの機能拡充<教育と研究>

プシ留学で国際交流!
図書館でEnglish / Japanese
会話やゲーム等を通じ、英語/日本語会話の練習をするなど日本人学生と留学生との交流を実施中!
▶ 新しい友人・知人関係の構築
▶ 語学力の向上
▶ 異文化理解の促進

未来へはばたく 広大生の学修・研究を支援!
ライティングセンター
「学修環境」の整備と「研究大学」の機能強化を支援する「広島大学型」ライティングセンター 2013年4月開設
▶ 書き手の学術的文章作成力を育む
▶ 研究成果の国際発信力を高め、研究大学としての機能を強化する

国際部との協働プロジェクト実施中!
グローバルラーニングセンター
国際部等と協働で、多文化共修科目や自律的な外国語学習、留学相談などに対応できるスペースを整備、合同運用を検討
2025年10月 西図書館に開設予定
<コンセプト>
自律的な外国語学習を支援する場所
何とどこで学べるのか、
どうやって学ぶのか、
ここに来れば一目でわかる、
繋がれる。
語学学習を
気軽に、身近に、自由に。

アカデミックライティング支援人材を育成する
<チューター養成課程>
1. 大学院授業の受講
2. チューター募集・採用
3. 新人研修
4. On the Job training
5. ミーティング内研修
ライティングセンターとしては、国内初の国際的チューター育成実施機関として認定 (2021年～現在)
▶ 国際標準のチュータートレーニングプログラム(ITTC)レベルを実施
▶ トレーニングプログラムの要件を満たしたチューターには認定証を授与 (現在までの累計認定チューター数 17名)
詳細はこちらどうぞ

今後の取り組み
▶ 図書館の空間構成を機能面から再構築する
▶ 人や機能を繋ぐハブの構築
▶ 英語、中国語、日本語スタッフ(学部生、大学院生)の確保と育成

広島大学の国際化を強力に後押し!
▶ 持続的な外国語学習・交流スペースの運用
▶ 学生への周知を目的とした効果的な広報活動の展開
▶ AI等を活用したサービス導入の検討

九州大学附属図書館

アクティブラーナーを応援

- 学生協働による包括的な学習支援
 - 認定された図書館TA (Cuter) による学習相談、イベント
 - 学生の視点を活かした学生ガイド (Cute.Guides)
 - 図書館職員も、Cuterの活動を通じて成長
- 中村哲先生の志を継承する取り組み
- 芸術工学図書館の取り組み
 - アクティブラーニングを促進する「場」の整備と再構築

アクティブラーナーを応援する 九大図書館の取り組み
九州大学附属図書館 Kyushu University Library
2025年6月19-20日 第72回国立大学図書館協会総会 研究集会

図書館TA(Cuter)と協働する授業外学習支援

九州大学のティーチング・アシスタントとして認定を受けた大学院生が、中央・理系・医学図書館で活動。(令和7年度前期 計20名)
「図書館といっしょに九大らしい自ら学び続ける“人”をつくる」Cuter自身が理想のアクティブラーナーになることをミッションとして掲げ、授業や科目の枠組みを超えた、幅広い学習支援を行っている。

行動指針

図書館職員
Cuterの声から学ぶ
研修の機会を提供する
必要な資源を提供する

図書館TA(Cuter)
人をつなく、自ら成長する
図書館と情報を活かす
好奇心や創造性を刺激する

● 学習相談
中央・理系図書館に学習相談デスクを設置。レポートやプレゼンの準備、授業の課題、進学や研究室のことなど、学生からの多様な相談に対応

● 講習会
レポートの書き方講座・実験レポート講座・プレゼン講座。Cuterが自らの経験を踏まえ企画・実施する学部1年生向けの講習会

● Cute.Guides
図書館がWeb上で提供する学習ガイド。「私の存論か」で読めるまで」「はじめての実験ノート」など、学生ならではの視点と専門知識を活かしたCuter作成ガイドを約190冊公開

● 学際交流イベント
学部・学府・学年の垣根を超え学生たちが自らの研究を語り合うQuiconや、Cuterが特定テーマについて取り上げるシリーズ企画 Cuter Cafe など、さまざまなイベントで九大生の好奇心を刺激する

中村哲先生の志を次世代に継承する九大プロジェクト

- **メモリアルアーカイブ**
「つなぐ」をテーマにした図書館内の展示空間。映像、グラフィックス、年表、書籍等で言葉と活動を伝える
- **中村哲記念講座**
授業の1科目として開講。中村医師の想いを繋ぎ、未来の課題に挑戦する学生たちを深い所で支える教養を培う場
- **著述アーカイブ**
中村医師の活動記録、著書・新聞・雑誌に著した文章、講演で語った言葉などを九州大学学術情報リポジトリ(OIR)で収集・公開

芸術工学図書館 (2023年6月リニューアル)
学生の創造性を育む図書館として

- **芸術工学部という特色ある部局との密接な連携**
- **芸工らしい学びの場づくり**
教員・学生とともに新しい図書館像を探り、図書館を再構築し、アクティブラーニングコリドー、映像音響ラウンジ等を新設。小規模展示、ワークショップ、個人製作の映像編集等の芸術工学部ならではの学生ニーズを取り入れる
- **サイエンスプラクティス**
学生の新たな興味を育む目的で学生や教員に自身の研究を紹介してもらうセミナー。リニューアル以前の2017年より30回以上の開催

長崎大学附属図書館

行動目標設定で利用者数減少に対応

- 利用者ファーストの取り組み
 - ・ ニーズ調査、サービス向上、環境整備の観点で目標設定
 - ・ ブックハンティングの開催頻度増
 - ・ e-room：設備更新による新たなアクティブラーニング環境
- 効果的な情報発信の強化
 - ・ SNSによりリアルタイムな情報発信（フォロワー数増）
 - ・ ニーズを反映した館内展示
 - ・ 他部署とも連携したイベント開催

第72回国立大学図書館協会総会 研究集会 ポスター発表

学生のための大学図書館へ！

—コロナ禍による大学図書館利用者激減に対する長崎大学附属図書館の改善の試み—

長崎大学附属図書館（中央図書館） 一瀬 隆

2021年度～2022年度 行動目標一覧		近年の取り組み（抜粋）	
大目標	中目標	小目標	達成度
利用者ファースト	きめやかな学生のニーズ調査を実施する	Twitterの投稿数を増やしてイベント告知の浸透を向上させる。	○
		図書館サービスに関するWebアンケートを実施して、30人以上の回答を得る。	○
		オンライン調査を実施する。	○
		学生参加型イベントを開催する。	○
		学生アンケートを実施し、集ったアンケートの回答を調査結果報告書にまとめる。	○
		オンライン集客動画、オンラインワークショップの配信を開始する。	○
		集客コンテンツを実施する。	○
		コロナ禍にも対応した学生向けサービス向上をはかる。	○
		「アサヒアリーナスコナール」を開設する。	○
		短時間で好評なイベント企画を実施する。	○
効果的な情報発信	リアルタイムな情報発信で発信する	Twitterのフォロー数を500～1000以上に増やす。	○
		ブログの更新頻度を4～6回/10日に増やす。	○
		集客動画の企画を実施する。	○
		長崎大学附属図書館ホームページを公開する。	○
		集客動画の企画を実施する。	○
		YouTubeチャンネルを開設し、動画を公開する。	○
		集客動画の企画を実施する。	○

【利用者ファースト】ブックハンティング

図書館に置いてほしい本を書店で調査するイベント。現在実施しているが、2025年度は期間を短くして頻度を増やす予定（年3回→年4回）。学生からも「続けてほしい」との意見あり。

【利用者ファースト】e-roomはユニバーサルオープン

職員・学生からの意見を参考に改善を実施した。移動式の椅子を設置、会話OKとして、様々な用途で活用できる空間とした。ユニバーシティの導入により、今後も図書館の教育研究環境の向上をはかる。

【効果的な情報発信】集客動画

集客増加のために、展示を短くして定期的に更新している。テーマは、最新の話題を取り上げ、学生からのコメントを参考に設定している。集客動画は「長崎大学2024」と題して、中央図書館出展ランキング上位の本を集めた展示。

【効果的な情報発信】SNSを活用した集客

集客を促すため、定期的に投稿を継続中（4月11日現在、ブログ「集客」はフォロワー数が1,000人を突破。2025年1月、入館者数も過去最高を記録のイグナスを行い、図書館SNSを活性化していることもフォロー数増加につながっている。

【その他】第110回全国図書館大会

第110回全国図書館大会「長崎・高専図書館が「学生のための大学図書館」をテーマに、学生のための大学図書館（e-room）をテーマにした展示ブース「ユニバーシティ」を設け、中央図書館で開催された。会場展示ブースでの意見交換が行われた。

学生の入館者数(2019年～2024年)

2024年度 入館者数(3館合計) ▶ 2019年度の68.7% → 目標達成 (目標値：2019年度の50%)

学生の貸出冊数(2019年～2024年)

2024年度 貸出冊数(3館合計) ▶ 2023年度比24%増 → 目標達成 (目標値：前年度比5%増)

今後の課題

入館者数は増加しているが、貸出冊数が伸び悩んでいる。図書館に全く来ない学生（全体の7.6%）、本を1度も借りていない学生（全体の49.5%）に対する働きかけをする必要がある。

※数値は2024年度

ポスター展示会場（会議室3）で
お待ちしております